

国の肥料価格高騰対策事業に係る二次申請が始まります

福井県内農業者向け
国の肥料価格高騰対策の二次申請のご案内

重要なお知らせ
 本事業の二次申請は、申請書・申請書100部程度を準備していただきます。申請書の提出は7月12日（水）までです。申請書の提出は、申請書の提出先（JA等）に提出してください。申請書の提出は、申請書の提出先（JA等）に提出してください。

支援の対象となる肥料
 今回の申請は令和5年1月1日から5月31日まで購入した肥料が対象です。申請書の提出は、申請書の提出先（JA等）に提出してください。

申請額
 申請額は、一次申請額に対して以下の割合で決定されます。申請書の提出は、申請書の提出先（JA等）に提出してください。

参加農業者の条件
 本事業の参加農業者は、申請書の提出先（JA等）に提出してください。

化学肥料生産の取組
 本事業の参加農業者は、申請書の提出先（JA等）に提出してください。

肥料コスト上昇分の一部を支援する、**国の肥料価格高騰対策事業の二次申請が始まります**。前年度から増加した肥料費について、上昇分の 7 割程度を支援金として交付するもので、JA等がグループで申請する事となっています。

二次申請は、令和 5 年 1 月～5 月末までに購入した肥料が対象となります。後日、二次申請用の購入肥料明細表を送付致しますので、申請書類に添付し期日までにご提出頂きますようお願いいたします。

品名	積込	当季別	積込口番	法	数量	単価	金額	積引	合計
コシヒカリ055	05-01-01	水			50	3,717	185,850		185,850
コシヒカリ056	05-04-20	水			50	3,717	185,850		185,850
日本晴588	05-05-01	水			5	3,896	19,480		19,480
							15,480		15,480
							15,480		15,480

【スケジュール】

- 申請書類送付……7月上旬(県再生協議会より送付されます)
- 申請書類提出……7月31日締切



気象に合わせた肥培管理

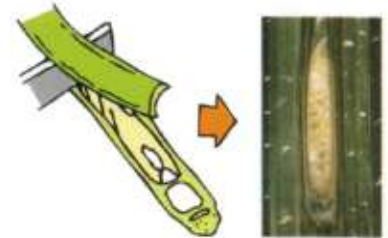
■穂肥時期・施用量の目安

・7月は稲の穂作り(生殖成長)がはじまる月です。収量、品質を左右する重要な時期となり農家の腕の見せ所の時期でもあります。よく圃場を観察し、きめ細やかで適切な肥培管理を心掛けましょう。

コシヒカリ幼穂形成期(幼穂長 2 mm/7月12日頃)の稲の姿

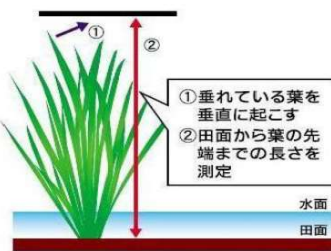
幼穂長の確認方法

生育	草丈	葉色	茎数
適正	80 cm未満	3.5	24本/株程度
やや過剰	80 cm以上	やや濃い	25~27本/株
過剰	80 cm以上	濃い	28本/株以上

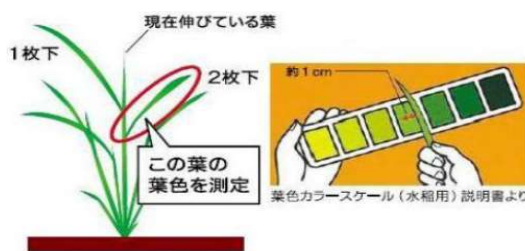


最長茎の地際をナイフで縦に切る

草丈の確認方法



葉色の確認方法



※一発肥料の場合であっても

・猛暑により気温が高く推移すると、生育が旺盛になり夜間の呼吸量が増加し、それに伴い養分消費が多くなり葉色が低下します。

※田植時の一発肥料を規定量施用していない場合や、高温により追肥成分が必要な時期を待たずに溶け出し、幼穂形成期時の葉色がコシヒカリで 3.5、日本晴で 4.0 を下回る場合には、**こだわり追肥 570** を7kg/10^a程度、2回目の穂肥に相当する時期に追肥施用しましょう。

※また、追肥をやりたいけど動散や労力がない場合には、**タブレット型肥料 NK タブ**を 2~3 kg/10^a施用で代用しましょう。

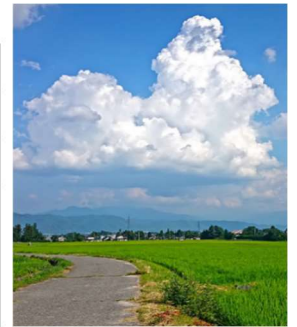
使用方法: 7 cm以上の湛水状態で畦から均一に投げ込み、5日以上湛水状態を維持しましょう。



幼穂形成期前後の水管理

■水管理(間断通水)

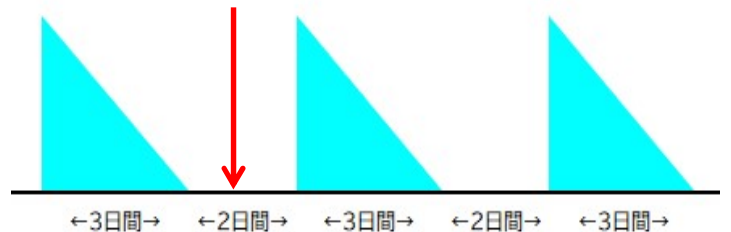
・幼穂形成期から出穂・登熟期間は水を多く必要とします。稲はこれまで茎葉で蓄えてきた養分を水に溶かして穂に送り登熟します。出穂期は湛水管理し、その後は収穫直前まで間断通水を実施しましょう。



間断通水のイメージ

・出穂以降は根が増えないため、間断通水により土に湿り気と空気を供給し、今まで増えてきた根の数を減らさないようにしましょう。土壤表層にある上根(細かい根)は乾燥すると消失しやすいので、足跡に水が残っているうちに通水し、常に湿り気がある状態を維持しましょう。

・根腐れに注意し、水を溜めっぱなしにせず3日間湛水→1~2日間落水を繰り返しましょう。



カメムシ(斑点米)防除対策

・カメムシ(斑点米)の被害は、ハナエチゼンを中心に格落ち要因になっていましたが、近年の温暖化による積雪量・積雪日数の減少により大型で生息期間の長いクモヘリカメムシなどが多発し、コシヒカリや日本晴でも大きな格落ち要因となっています。



■防除前の草刈りを実施しましょう。

・雑草の多い圃場や畦畔はカメムシの侵入を助長します。早期の一斉草刈り(出穂 10 日前迄に)でカメムシの住処や密度を減らしましょう。

県下一斉草刈りDAY……7月1日(土)・2日(日)

■基幹防除(2回)を実施しましょう。

・斑点米予防にはラジヘリやドローンを使用した一斉(面的)防除で生息数を減らすことが効果的です。**基幹防除(2回)は必ず実施しましょう。**

・一斉防除が出来ない圃場では、粉剤での2回防除や粒剤で防除しましょう。



薬剤名 [Ⓔ]	施用量 [Ⓔ]	施用時期 [Ⓔ]
エクシード粉剤 DL [Ⓔ]	3 kg [Ⓔ]	出穂期~傾穂期に2回以上 収穫7日前まで [Ⓔ]
アルパリン粉剤 DL [Ⓔ]	3 kg [Ⓔ]	
アルパリン粒剤 [Ⓔ]	3 kg [Ⓔ]	出穂7日後~10日後 収穫7日前まで [Ⓔ]